

賢太郎 劇場にご招待 ⑧



トウインクルフェス'09

2009. 12. 28 東京厚生年金会館

毎年暮れに行われているラーメンズ所属事務所のお祭り。箱を大きくしたせいで空席が目立った。ラーメンズだと席が取れないのに、ラーメンズがひとつのネタしかやらないとなると空席が出る。オープニングは、テレビではあまり見たことのない芸人たちが忍者と新撰組の扮装で登場。それからおもむろに將軍姿の賢太郎が登場し、仁さんは神輿に乗って北島三郎の「祭」の替え歌で登場。

♪皆様、賢太郎、今年もありがとうって歌詞に笑った。

忍者と新撰組がもみ合いを始めその真ん中から將軍様の賢太郎が飛び出してきて「BEAT IT」をみんなで踊る。賢太郎は大げさなくらいのキレキレダンス。仁さんが指揮をとると誰も踊らず、賢太郎だとみんなが踊る。いつものパターンだが面白い。

そのあと、会場を巻き込んだゲームとなる。「めぞん一刻」の音無響子さんに似た人を見つけるために賢太郎が（仁さんも）舞台から降りて来たり、一列目の人たち全員が手をつなぎでんじろう先生の扮装（白衣を着てるだけけど）の賢太郎と静電気の実験をしたりする。響子さんを探すときには自ら声をあげて手を挙げている人も結構いた。ああいう人たちがつまらないところでも笑ってばかりいるうるさい人たちなんだろうなと偏見の眼を向けてしまった。「手を挙げている人は選ばない」と言ったエレキコミック、いいぞ。賢太郎は絶対に言わない言葉。そりゃ私だって髪が長いってだけで麻生を選んでくれないかなとは心の奥の奥では思ってたけどね。



若手のコントが全て終わってからラーメンズの登場！どのコントをやるのか楽しみにしていたら賢太郎が一言も話さない「スーパージョッキー」だった。どうせ話さないコントなら「たかしと父さん」がよかったな。

最後はまた「BEAT IT」で締めて散会となる。

2009年のラーメンズの見おさめでした。

その夜に賢太郎のメッセージがUPされていた。

【2009年も相変わらずコントの為に使い切った一年でした。試したかった事を試して、勉強したかった事を勉強して、2010年までにやっちゃいたかった事は全部やりました。これで次の一步を踏めます】 次の一步が『ポツネン』だったのです。

LIVE POTSUNEN 2010 『SPOT』

2010. 2. 18 横浜BLITZ (公演2回目)

二年ぶりのポツネンは横浜から始まった。今回の「ポツネン／SPOT」は全国で35公演。

横浜での公演は初めてなのでなんとしてでも行きたかった。友達にエントリーを頼みまくり50エントリー以上してやっと二日目が一本当たった。うさお、Cacco 夫妻のラーメンズ大好き息子くんと一緒に行くことになり、賢太郎への楽しみの他に別の感情を持って横浜 BLITZ へ向かった。

当日券の発売方法が変わり並ぶことになったため、着いたらすでに行列があった。一時間並べばだいたいは入れるらしい。当日券を出すくらいなら、ぎりぎりまで前売りで売ってほしい気持ちを抱え席に着く。ライブハウスなので平らで見にくいのではないかと思っていたが、2か所くらいに段差をつけてあった。もっとも私たちの席はG13 (ゴルゴ13!) で、6列目 (Bが1列目だった) のほぼ真ん中だったのでもうばっちり。ただそれでも息子くんは眼鏡を忘れたのでよく見えなかったと。顔はともかく手先まで神経を使うポツネンでその台詞はあまりにもったいないぞ、息子くん。



舞台に霧が立ち込め右手からやや太ったポツネン氏が登場。しんとした始まり。

どこかの国の人が、けん玉と井戸がセットになっているものを買ひ、動かそうと試みるが上手く扱えない。試行錯誤してやっとけん玉の先に玉が入る。

そこで賢太郎ひとこと

「すぼ…っと」——始まる。

徳澤青弦の曲が流れ、布に書かれてある公演名などを賢太郎が順番にスポットライトをあてて照らし出し、ポスターと同じ形を作っていく。→

音楽が止み、舞台のぎりぎりまで出た賢太郎が丸椅子に座り話し始める。骨董屋が舞台の落語調。



ふたつめのコント、アナグラムでは平仮名が書かれているカードを言葉に並び変えるのに何回も間違える。今までになかったこと。仁さんが間違えると笑いになるが、カードの失敗で笑いをとることが賢太郎には出来ず、順番を間違えてもそのまま黙って続けていた。何もなかったことにするムーブでも流せばいいのに突発的なものに全く弱いこともあるし、失敗を許せない緊張が伝わって来てしまい画面に映し出る指の戸惑いに、こちらも微かな緊張を持ってしまった。



アドリブも少なく二日目は余裕がないのか。一日目で不評だった音楽を二日目で変えたらしい。アンケートがすぐに反映されるのは嬉しいが、カンペキで初日を迎えたはずなのに、どうした賢太郎！

肝心のラストも「小林賢太郎テレビ」を見てた人にはオチがわかってしまう。それも綺麗に決まらない。穴だらけのぐだぐだ賢太郎。だけど、舞台は生き物。これから変わっていくポツネン氏に期待する。

LIVE POTSUNEN 2010 『SPOT』

2010. 3. 6 新神戸オリエンタル劇場 (公演14回目)



2階の1列目。B席なのに1列目。この劇場はAから後ろという糠喜びが多そうな席順。

ちょっと遠いが小さな劇場なのでみにくいことはなかった。

公演二日目の横浜とはまるで違っていた。横浜では失敗が続いたアナグラムも成功し、アドリブも増えて緩やかな舞台になっていた。やはり舞台は生きていた。

取りにくいチケットなのに何回も行くのは申し訳ないが、こうやって変わってきている姿も見たいのがファンの気持ち。

横浜よりずっとずっと面白くなっていた。

これでこそわざわざ神戸まで行った甲斐があるというもの。

どちらにも途中で入ってくるお客さんに賢太郎は舞台から声をかけていた。

「いらっしやいませ」とか「今、ここに井戸があつて...」とか説明したり。

それはそれで面白くはあるけれど、それがいつものことにならなければいいと危惧してしまう。それまで作ってきた話をいったん切ってしまうことを敢えてするのは、客席の動きで舞台が途切れてしまうことがいやだから、それならいっそのこと笑いにしてしまおうと自分から切っているように感じる。

色々と事情があって遅れるのは仕方ないことでもなるべく客席で待つようにしてほしいと一ファンは願う。私も気をつけますです。

全体的には前回の「ポツネン／Drop」より面白かった。基本的に同じことを続けていて、なおかつ面白くしていくというのは新しいことをするより難しいのではないかと思う。『ない』シリーズは最後に行くまでが長すぎると思うが、私などが想像がつかないほどにまたどんどん変わっていくのでしょう。

こうなりや東京の盛り上がりも体感したい。しかし、一般はあっという間に売り切れるし、無理だろうなあ…。いやいや欲張ってはいけない。まだ静岡がある。



LIVE POTSUNEN 2010 『SPOT』

2010. 3. 27 東京グローブ座（公演26回目）



ホームグラウンドの東京。一般発売で奇跡的にチケットが取れた。一般で取れる人っているんだあ、実際。さすがに一枚しか取れなかったの、一人で行かせてもらいました。

今回遠征をしてよくわかったのは賢太郎は東京横浜に人気が集中していること。北海道、静岡はチケットが定価でも売れない。諸事情により私も静岡のチケットを譲渡した。席が4列目ということもあってこれはすぐに売れたけれど、静岡に北海道にファンはいないのか！と叫びたい気持ちだった。

さて、東京。私の席の列、ずら〜っと女組。それも一人で来ている人が多かった。アンコールの舞台からはけるときに、とても見にくそうな席の女の人に挨拶をした。それも二回も。う、う、うらめしい、じゃない、羨ましい。

1 OPENING

男が買った奇妙な道具。日本でいうところの井戸とけん玉。その道具を上手く扱えず試行錯誤する。

けん玉からアンテナが伸びて電話になるところなど小宮山（こみやま）さんを彷彿とさせる。ネタ自体は普通なのに細かいところで笑わせてくれる。

2 ひみつぼ

骨董屋の主人と、その骨董屋で売っている一日 100 円ずつ値段が上がる奇妙な壺が気になるってしょうがない男。ある日、壺の値段が一気に上がる。

前回の「ポツネン/Drop」でもやっていた落語。巧いとは思いますが、相手に仁さんが見えちゃダメでラーメンズでやればいいのと思ってしまう。

3 アナグラム

言葉が書かれたカードを並び替え、それにあつた絵をカメラ前にどんと出す。横浜では笑えなかったものも神戸では台詞が入っていて楽しくなっていた。

4 小さいお医者さん

お医者さんの元にやって来る患者の怪獣のお話。

神戸ではアドリブ冴えまくり。今回の笑いどころ。SEとパントマイムで光景が浮かぶ。これがいちばん変わっていたかな。

5 『ない』紙芝居

ありそうでないものがテーマの紙芝居。

笑うこともほおと感心することもなく淡々と進む。紙芝居の道具も自分で作ったんだろうなとコントから離れたところに視点が行った。

6 一坪の王国

一坪の国を作った王様が建国のためにかの国から色々なものを集める。

ちょこちょこ手品をはさむ。そっちの世界でも十分やっていけるくらい見事。

7 線上の手男 <handmime>

ポツネンではおなじみ、ハンドマイム。

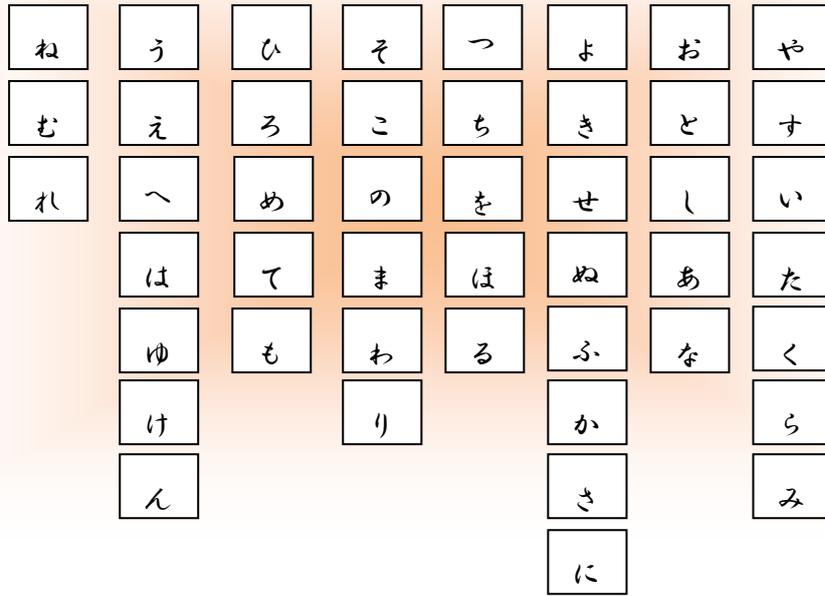
内容もさして変わらず。でも指、綺麗。…見慣れるとこんな感想だが、最初に見た人はかなり驚く。まだ見ていない自分に戻りたい。

8 うるう人

いつも最後の余り 1 になってしまううるう人。余らないために自分以外の人を落とそうと穴を掘るがその穴の深さに上に登れなくなった。仕方なく周りの土で家族や友人を作る。賢太郎がテーブルに行き、50音に並べたカードをさらさらと並び替え文章を作る。一文字も余らなくてよかったと呟き膝を抱え眠るうるう人…。

お笑いか、これでお笑いか！舞台がしんとしたぞ。うるう人切ないぞ。

公演のタイトル「ポツネン」も、主役じゃない人を主役にする賢太郎、好きだぞ。



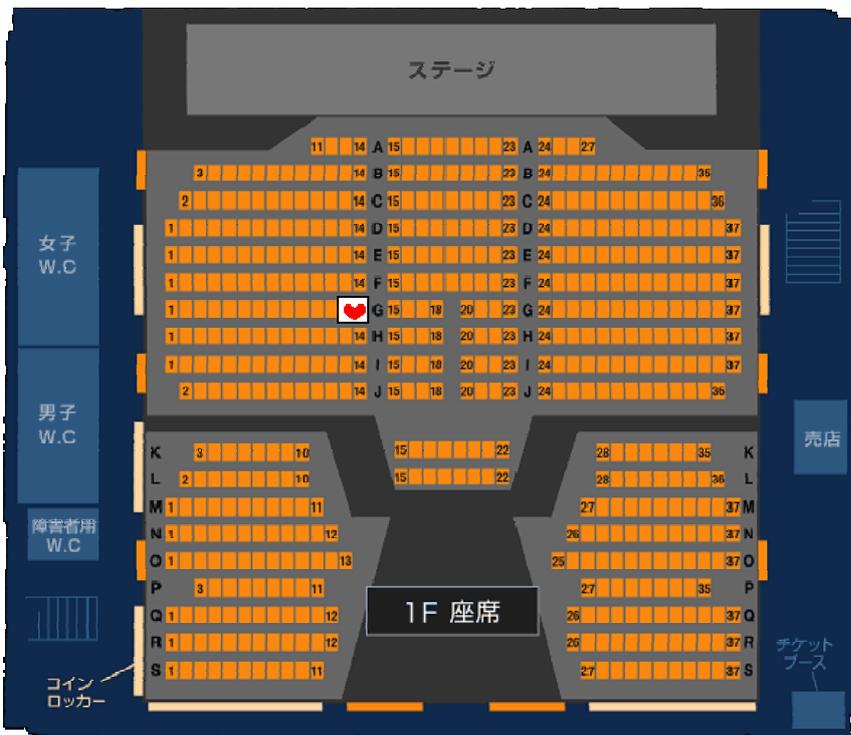
9 一坪の王国 2

王様がかの国で買ってきた品物で開く王国の博覧会の準備をする。

うるう年で静まり返った会場が、呑気な王様の出現で一気に息を吐くことが出来た。



☆横浜 BLITZ ☆ 1階G列13、14番



1階 548席

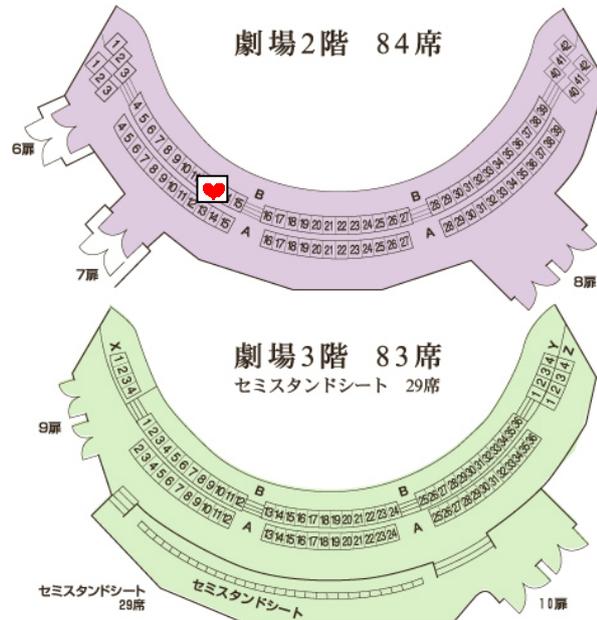
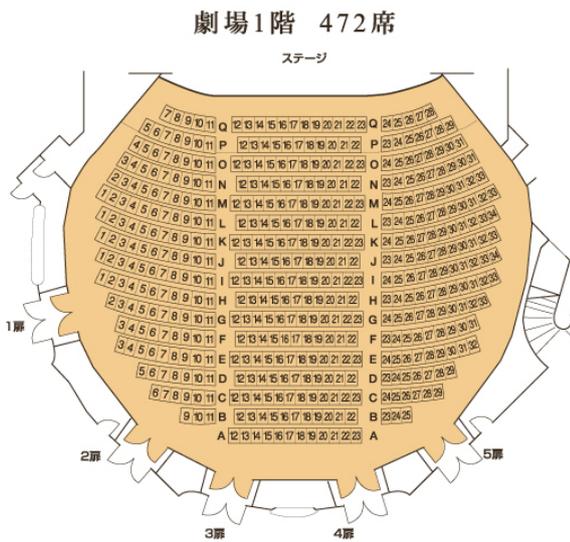
2階 300席

客席総数 848席

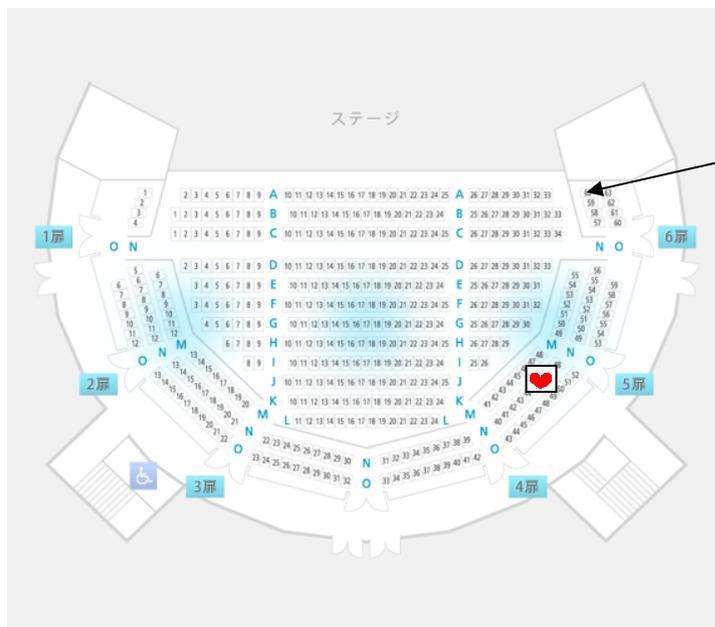


☆オリエンタル劇場☆ 2階B列12、13番

1階 472席 2階 84席 3階 83席 客席総数 639席



☆東京グローブ座☆ 一階 N列45番 客席総数 604～703席



賢太郎が挨拶をした人の席



みなさまのご協力のおかげで3回も参戦出来て感謝感謝です。
 神戸の公演のついでに、数年ぶりの旅行で娘と京都を楽しむことも出来ました。
 冬の京都はどこへ行っても人は少なく、竜馬のお墓も南禅寺の水路閣もゆっくりと見て周れました。
 私の旅は終わりましたが、ポツネン氏はまだ旅の途中。
 私は賢太郎の次の旅までいざさらば、です。